

## 2022 年度第 3 回 N P O 法人共同保存図書館・多摩理事会

- 1 日 時：2022 年 6 月 24 日（金） 午後 8 時 00 分から
- 2 方 法：ZOOM アプリを媒介にしての遠隔会議
- 3 議決権のある理事：9 名  
出席者：座間直壯、齊藤誠一、田中ヒロ、手嶋孝典、中川恭一、保坂一房、堀 渡、堀越洋一郎  
欠席者：清田義昭  
事務局員の参加者：雨谷逸枝

### （1）第 1 号議案 会員の動向について【報告】

- ・2022 年 6 月 20 日現在 正会員 80 名 2 団体 賛助会員 35 名 2 団体、計 115 名 4 団体（合計 119）  
（昨年度中に申し出があり 4 月 1 日付けで正会員 1 名、賛助会員 1 名が退会したが、一方で  
賛助会員から正会員への切り替えが 1 名。また新規の賛助会員の入会が 1 名、1 団体あった）

### （2）第 2 号議案 2022 年度通常総会の結果について【報告】

- ・5 月 28 日（土）午後 2 時から調布市たづくり 1001 学習室で 2022 年度通常総会を開催した。
- ・正会員数 82（個人 80 名、団体 2 団体）なので、定款第 26 条により、定足数は 41 だった。  
出席者 11、書面表決出席者 54、合計 65 で定足数を満たしており、総会は成立した。
- ・座間理事長が議長に選出され、議事を進行したが、議案書で提案していた 4 本の議案は、  
表決票で寄せられた会員の意志を含め、満場一致ですべて可決成立した。
- ・昨年度、一昨年度はコロナ蔓延のために、予約していた会場が使用取り消しになり、急遽、  
役員だけで多摩デポ事務所で総会を開催せざるを得なかったが、予約した広い会場で開催  
することができた。
- ・今年度もコロナ禍が続き、会員には事前の書面表決票の提出による、各議案への意志表明と総  
会成立への協力を呼び掛けた。当日、総会に出席された場合は、会場で書面表決票はお戻しす  
ると説明した。また ZOOM による会員の意見交換会を総会前の 5 月 17 日（火）に開催し、書面  
表決票提出の判断の参考にしてもらえるよう、議案説明や質疑を行った。
- ・まだ一般的には外出を控えた方がいいという空気はあり、出席者の少ない総会になったが、も  
ろもろ準備をして、公共施設での総会が行えた。会員参加者があり、対面で行えたことはよか  
った。
- ・会員数が減っている面はあるが、会員からの書面表決票の提出率は高かった。
- ・会員には近日中に、書面による「総会報告」を送付する予定である。

### （3）第 3 号議案 総会記念講演会の開催について【報告・討議】

- ・総会議案書の中で提案した、録画の配信による総会記念講演会を近日行う予定である。
- ・たましん地域文化財団歴史資料室室長で多摩デポ理事の保坂一房氏に、「地域資料とデジ  
タルアーカイブ—たましん地域文化財団歴史資料室を例に」と題して講演してもらう。
- ・保坂理事より、どんな内容と構成の講演にするか、現時点の構想の説明を受けた。

- ・かつて保坂氏が話された『ブックレット第2号』が品切れになっている。総会では、ブックレット1冊の刊行費を計上した2022年度予算が承認された。理事会では、具体的には、この講演を基にしてブックレットを刊行することが決まった。
- ・カーリルとの共同研究の今後の方向性の検討の中で、多摩地域の各図書館や役所でも地域関連のデジタルアーカイブの作成と発信が目立つが、どんなアーカイブがどこで公開されているのか、いつまであるのかの情報が十分でなく、かつ不安定。そういうデジタルアーカイブのデータベース等の研究をしてもよいのではないかと、という指摘が出ている。そういう意味でも、時宜にかなった講演企画と言えるのではないかと話があった。
- ・ブックレット化の詳細は、講演後、事務局と保坂氏で検討する。

(4) 第4号議案 (株)カーリルとの共同研究について【報告・討議】

- ・1年以上の研究と検証を経て、今年年4月からTAMALASに、たましん地域文化財団歴史資料室の所蔵情報を検索、表示できるようにできた。
- ・この間の共同研究の報告論文を執筆していたが、日本図書館協会が発行する季刊誌『現代の図書館』への掲載が決まった。『専門図書館の蔵書の書誌に対する ISBN 大量遡及入力の実践—たましん地域文化財団歴史資料室を事例に—』(齊藤誠一、保坂一房、吉本龍司) 同誌 第60巻2号に掲載となる。

(本来、2022年6月末発行、2か月ほど刊行は遅延の見通し。これから校正作業となる)

- ・ここで研究の小さな一区切りがつくので、定例会で次に行う課題を検討する必要があるが出てきている。事務局では以下の3案を示して話し始めた、と報告があった。

(1) 「多摩デポ統合検索」での書誌割れの解消について

- ・多摩デポ統合検索では、同一資料の同定識別ができない。これを解消することを考えてきていて、先ず地域資料の同定識別を優先して考えてきた。基本となる書誌情報を作成し、それを標準MARC(多摩MARC)として活用する。たましん歴史資料室と協力して、この取り組みを行っていく(以前に行った調布市立中央図書館の多摩川資料の書影も活用する)

(2) 多摩地域のデジタル資料のアーカイブについて

- ・各市が公表しているデジタル資料を検索するツールがない。また、ホームページで公開させているデータが消されていくという問題が発生している。
- ・各市のデジタル資料の現状を調査して、その資料を検索できるツールを作成すると同時にデジタルアーカイブを考えていく。

(3) 各市が所蔵する資料でISBNが入力されていない資料の遡及入力について

- ・たましん歴史資料室で行ったISBNの遡及入力を各市の情報に適用し、その作業を行う。これが進めばTAMALASでヒットできない穴をうめていけることになる。また、作業に応じてくれば、その図書館との具体的な関係は深まるだろう。
- ・各案について、質疑や意見交換を行った。

(5) 第5号議案 第4回多摩デポ実践講座の企画について【報告・討議】

- ・5月10日に、第3回多摩デポ実践講座「除籍作業には TAMALAS 一括処理システムを使おう！」を ZOOM で行ったので、まずその報告があった。
- ・TAMALAS 一括処理システムを活用した大掛かりな閉架書庫（自動化書庫）の点検を実施中の府中市立中央図書館の事例報告と、システム構築に携わった（株）カーリル吉本氏のコメント、司会は多摩デポの中川理事という約50分間の職員研修ビデオが、「除籍における TAMALAS 一括処理システムの活用について」と題して、図書館長協議会の図書館サービス研究会から、多摩地域の全図書館へ3月一杯は配信されていた。その関連企画でもあったので、反響を期待していたが、ふたを開けると第3回講座の参加者は7人（5自治体）と極めて少なかった。
- ・参加が少なかった原因は充分につかめずにいるが、120冊の鉄道テーマ本のリストをその場で一括システムにかける実況中継という企画の工夫もあり、開催した側としては説得力のある内容ではないかと考えている。参加した方には手ごたえはあった。
- ・多摩デポが具体的に広めようとしている TAMALAS 一括処理システムが主題であり、3月の職員研修との関係もあるので、内容はほぼ同じで、もっと大勢の職員が参加できるように工夫して、第4回講座として実施したい。集客のための改善点、図書館長協議会や図書館サービス研究会へのPRの仕方、日程の考え方などを検討中であると、事務局から報告があった。
- ・理事会として了承。図書館長協議会、図書館サービス研究会との連携の可能性も探りながら時期を見て実施する。

#### （6）第6号議案 図書館長協議会との連携について【報告・討議】

- ・多摩デポはこれまで、東京都市町村立図書館長協議会の役員が2年任期で変わるたびに三役の方に面会し、挨拶と理解・協力をお願いしてきた。
- ・コロナ禍のため、図書館長協議会は過去2年は館長が直接集まる会合は控えることが続き、担当職員の研究会活動や、主催する三多摩図書館大会も中止、あるいは講演の配信だけになってきた。そのため多摩デポも図書館長協議会に挨拶する機会が持てなかった。
- ・今年度から図書館長協議会がリアルな会合を再開したので、6月22日午後、図書館長協議会三役（会長、副会長、事務局）の館長にお会いすることができた。多摩デポの目指すもの、これまでの活動、図書館長協議会や多摩の図書館活動との関係などを話し、理解を促し協力を申し出てきた。
- ・4年前に図書館長協議会全体会で行った「TAMALAS 一括処理システム説明会」や、「里親探し事業」、「多摩デポ実践講座」の案内もしてきた。
- ・除籍資料担当者が進めてきた「資料除籍のガイドライン」作りが最後まで行っておらず、宿題であることも伝えてきた。
- ・多摩地域の図書館間での希少資料の共同保存に向けた実践活動のさらなる広がり、そのための TAMALAS 普及や、東京都立図書館に対する共同保存の要請などを含め、図書館長協議会との連携を再構築していきたい。

#### （7）情報交換

- ・「里親探し」事業の、他自治体への資料提供斡旋の依頼が1件あり、募集していたが成立した。資料の引き取りと配達は近日行う。
- ・元国立国会図書館長の安江明夫氏が亡くなったが、著作権継承者の方から、私家版『安江明夫の

仕事』（仮題、2023年発行予定）を編むにあたり、同氏の講演録、多摩デポブックレット第1号『公共図書館と協力保存』の収録の承諾を依頼するFAXが届いた。→ 理事会として了承。けやき出版に連絡の上で、了承の返事をするようになった。

- ・『多摩デポ通信』第61号は、2022年夏の号として発行することになる。まだ掲載する記事は具体化できていないが、8月の次回理事会までには提案できるようにする。

【多摩デポ関係記事】

- ・時になし

【共同保存図書館関連論文】

- ・特になし

【今後の予定】

- ★ カーリルとの共同研究定例会 7月1日（金）午後8時より、Zoomを使って
- ★ 事務局会議(2022年度第5回) 7月8日（金）午後8時より、Zoomを使って
- ★ 次回理事会 第4回理事会 8月9日（金）午後8時より、Zoomを使って

5 議事録署名人の選任

議事録署名人として2名を選任することを諮り、堀 渡理事、堀越洋一郎理事を選任することを全員異議なく承認した。

以上、この議事録が正確であることを証します。

2022年6月24日

議長

議事録署名人

議事録署名人